

▶ 第16章

「競争と協力」の強靱性

——日中関係の安定と信頼醸成

学習院大学法学部 教授

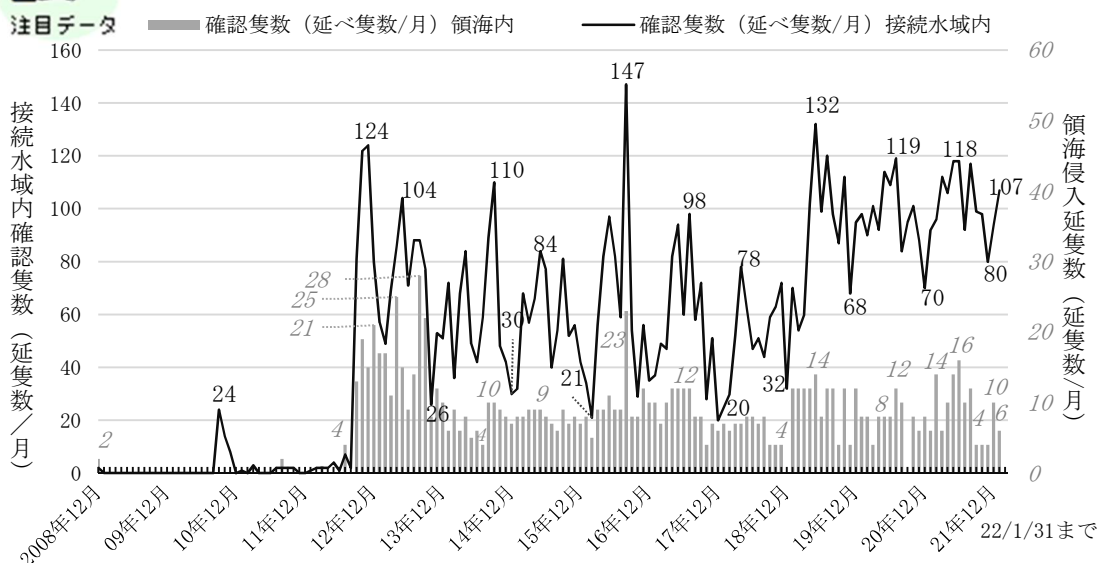
江藤 名保子

【ポイント】

- ▶ 日中関係は歴史認識問題の悪化と収束を繰り返した「摩擦と改善」のサイクルから、尖閣諸島問題をめぐって安全保障の対立が続く「競争と協力」の構造に移行した。さらに2021年からは国際的な制度間競争に組み込まれ、東アジア地域の安全保障に直結する複雑な力学が働いている。
- ▶ 今後も日中間の安全保障上の緊張が高まることを前提に、対中協力を打ち出すことでバランスを取ることが求められる。第2次安倍政権の経験を踏まえ、経済協力をてこに対話の窓口を開き、安定的な日中関係を目指すべきである。
- ▶ 中国は行動規範が異なるために、各国からの信頼を失っている。「環太平洋パートナーシップに関する包括的及び先進的な協定（CPTPP）」加入交渉では既存のルールに基づいて評価し、マルチの協力枠組みにおける中国の影響力の拡大を回避しつつ、ルール形成に巻き込んでいくことが望ましい。中国との信頼醸成を図るにあたって、先ずリスク認識の共有を図ることが重要である。



尖閣周辺での中国公船の動きが活発化している



注：中国海警局に所属する船舶等による尖閣諸島周辺の接続水域内入域及び領海侵入隻数
資料：海上保安庁ウェブサイト